

新吉田地域ケアプラザ事業実績評価

	平成 24 年度について	平成 25 年度に向けて
地域交流部門について	<ul style="list-style-type: none"> ・港北区地域福祉保健計画・港北区地域福祉活動計画「ひっとプラン港北」の推進支援や介護予防等において、地域交流部門と地域包括部門との連携がよくとれていると感じる。 ・地域における災害時要援護者対策や、徘徊高齢者の早期発見の仕組み作りにおいて、ケアプラザも重要な地域資源の1つとして、一体的に取り組んでいる。 ・担当するエリアは複数にまたがっているが、「あすなるさがしてネット(徘徊高齢者探索保護システム)」など、各地区をつなげる工夫がみられる。 ・HPでは、自主企画事業以外に地域で行っている活動を紹介するなど、幅広い対象者に向けて地域活動への関心を高めるよう、工夫したきっかけづくりをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当地区に新設される地域ケアプラザへの引き継ぎが滞りなくできるよう留意しながら、事業や地域支援を行っていただきたい。 ・ホームページの充実は、若い世代にとって貴重な情報源になっている。幅広い世代により多くの情報が届くよう、工夫をしていただきたい。
地域包括部門について	<ul style="list-style-type: none"> ・チラシを作成し、包括の広報活動に積極的に取り組んだ。 ・民生委員と顔の見える関係ができており、民生委員から直接包括にケースの相談が入ることが多かった。 ・ケース対応では、区と情報共有を行い、役割分担のもと対応した。 ・あすなるふらっとサロンについて、地域と話し合いを重ね、立ち上げることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで同様、日常的なケース支援を行いつつ、処遇困難ケースや虐待ケースについては、区、包括それぞれの役割分担しながら支援をしていただきたい。 ・高齢者が介護予防・健康づくり活動を自主的・継続的に行う元気づくりステーション事業について、区と包括とで協力しながら地区アセスメントを更に進め、地域ニーズに応じた活動ができるようにしていきたい。

篠原地域ケアプラザ事業実績評価

	平成 24 年度について	平成 25 年度に向けて
地域交流部門について	<ul style="list-style-type: none"> ・自主事業を通じて把握したニーズを包括につなぎ、また、元気づくりステーション立ち上げに地域交流部門と地域包括部門が協力するなど、所内における連携ができていていると感じる。エリア会議やケア会議等を通じて区との情報共有もできている。 ・パパ支援事業を復活させ、好評だったとのこと。今後の活動に期待が持てる。 ・港北区地域福祉保健計画・港北区地域福祉活動計画「ひっとプラン港北」の篠原地区計画「わがまち篠原」ボランティア分科会と共催で障害児の理解と通学などの移動支援を紹介する移動支援ボランティア講座を開催したことは、「ひっとプラン港北」や地域との連携を深めているとともに、ボランティアの発掘や地域への理解を深める取り組みであると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との顔の見える関係づくりをより一層すすめる、地域に根差した事業を行うようころがけていただきたい。包括と連携した地域における見守りへの取り組みも期待している。 ・地域ケアプラザの事業の参加者等が地域で活動する人材となるよう、きめ細かな支援を期待している。 ・篠原中学校が被災地と交流した「仙台プロジェクト」の報告会や、富士塚自治会の要援護者対応の取組報告を篠原地区内で開催するなど、災害時対応の機運が高まっている。 地区内の自治会が港北区役所と連携し新たに災害時の要援護者支援を今後具体化することから、区役所とともに自治会町内会等への支援をお願いする。
地域包括部門について	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待、認知症高齢者等で緊急事態が発生した場合等について、迅速に居宅訪問や介護サービスの調整を実施して頂き、大変ありがたいと感じている。 ・平成 25 年 2 月に数年ぶりに介護者の集いを開催して頂いた。地域より 19 名もの方が参加するなど篠原地域での関心の高さをうかがわせた。今後も是非継続していただきたい。 ・篠原地域は、ミニデイサービス等のインフォーマルサービスが活発。参加者・代表者と連絡を密に取り合い、必要に応じて講座等のフォローを行うことで地域活動支援に繋がっていると思うので、今後も継続していただきたい。 ・男性が参加しやすい仕組みづくりが評価できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェブサイトをもっと活用することで、遠隔地に居住する方にも地域ケアプラザの周知を今後も図っていただきたい。 ・篠原地区は長く住まわれている方が多い地域のため、地域活動がしっかりしているが、なかなかうまく入れない方もいるので、そういった方にも配慮した活動を行っていただきたい。 ・篠原地区は町内会により隣接する地域ケアプラザと重なり、通りを隔てて他区に面しているため、幅広いニーズに応えていただきたい。

高田地域ケアプラザ事業実績評価

	平成 24 年度について	平成 25 年度に向けて
地域交流部門について	<ul style="list-style-type: none"> ・高田中学校区学校・家庭・地域連携支援事業と高田地域ケアプラザによる共催での高田 Fes！の開催や高田中学校の生徒がボランティアとして運営に参加した介護予防教室を行うなど、地域、学校、地域ケアプラザとが連携を行い、地域の人材育成を行っていることは評価できる。 ・子育て分野や障害分野において、地域の課題や住民のニーズを的確に把握し、具体的な事業につなげていることが評価できる。 ・地区キャラクターを人材発掘に活用し、また地域活動の活性化につなげる工夫がみられる。 ・活動が地域に根差したものになるよう、意識的に地域人材を巻き込むなど、地域交流部門のコーディネート機能をうまく発揮している。 ・精神保健サロンの立ち上げなど地域ニーズに対して地域ケアプラザの特性を活かし、地域と専門機関とのコーディネートを行っているのは評価できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ケアプラザが築いてきた学校との良好な関係を活かし、ボランティア意識の向上や地域の担い手育成につながる事業を引き続き行っていただきたい。 ・引き続き、地域の福祉保健課題や当事者のニーズ把握に努め、必要とされるサービスの充実に向けた事業を展開していただきたい。
地域包括部門について	<ul style="list-style-type: none"> ・包括、地域交流等、職種にこだわらず、個別ケース対応や事業全体に取り組めた。 ・個別の処遇困難ケースについて、事業者や区などと、密に連携をとりながら、対応できた。緊急な対応が必要な場合には、即座に訪問して安全確認等ができた。 ・喫茶たかたに加え、精神保健サロンも始まり、高齢者や障害者の居場所づくりに取り組んだ。 ・75歳以上のひとり暮らし高齢者を民生委員が訪問し、安心して生活ができる地域づくりを進める『ひとり暮らし高齢者「地域で見守り」推進事業』や地域ケアカンファレンスを積極的に取り組んだことで、地域の病院、民生委員、事業者、区とのネットワークづくりにつながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、個別ケース対応や事業全体について、地域ケアプラザとして協力して取り組んでほしい。 ・平成 24 年度におこなった地域アセスメントを深めていき、高齢者が介護予防・健康づくり活動を自主的・継続的に行う元気づくりステーションの立ち上げを視野に入れて、地域ケアプラザ以外の場所でも地域住民が集える居場所づくりにつなげて行っていただきたい。 ・平成 24 年度にできた地域ネットワークを基礎にして、地元町内会や商工会等にもネットワークを広げていくことで、より綿密な見守りネットワークの構築を区も一緒に取り組んでいきたい。

下田地域ケアプラザ事業実績評価

	平成 24 年度について	平成 25 年度に向けて
地域交流部門について	<ul style="list-style-type: none"> ・若い親世代をターゲットにした自主企画事業の企画など、地域ケアプラザと接点を持ちにくい世代に向けての働きかけに工夫がみられる。 ・地域で継続した活動をしている自主グループに対して積極的に関わり、団体同士が協力しあえる環境づくりに努めていることがうかがわれる。 ・高齢者が介護予防・健康づくり活動を自主的・継続的に行う 2 か所の元気づくりステーションの立ち上げにあたっては、地域に関する情報共有やアセスメント等、地域交流部門と地域包括部門とが連携を行っている。 ・地域の学校・ボランティア会と協働して福祉教育を積極的に行っていることは、地域の人材育成やボランティアの興味を持たせることのできる事業である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との信頼関係を活かしながら、さらなる活動の広がりや、港北区地域福祉保健計画・港北区地域福祉活動計画「ひっとプラン港北」の推進支援を期待している。 ・貸館登録団体とともに協働して新たに自主企画事業を開催していることは、貸館事業の活性化につながり望ましいので、引き続き行っていただきたい。 ・若者世代は地域福祉等に触れる機会が少ないので、地域の学校・ボランティア会と協働して福祉教育を行うことは、地域活動の担い手の育成・発掘につながる取り組みであり、今後も連携を維持していただきたい。
地域包括部門について	<ul style="list-style-type: none"> ・包括、地域交流等、職種にこだわらず、地域ケアプラザ全体で事業に取り組んでいる。 ・民児協やケア連等、積極的に外に出て地域に入っており、顔の見える関係を築いている。 ・個別ケースや処遇困難ケースについては、必要時、区や関係機関とカンファレンスを行い連携をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・元気づくりステーションや既存組織が継続して活動できるように、地域住民、区と協力して支援をしていただきたい。 ・これまで同様、日常的なケース支援を行いつつ、処遇困難ケースや虐待ケースについては、区や関係機関と連携を取り役割を分担しながら、支援をしていただきたい。

大豆戸地域ケアプラザ事業実績評価

	平成 24 年度について	平成 25 年度に向けて
地域交流部門について	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォータープラザ祭り、3R 夢祭り、太尾支えあい祭りなど、行政、地域のイベントに積極的に参加し、地域との結びつきを強めている。 ・貸館登録団体の活動内容をまとめ、地域、民生委員に広報したり、説明会を行うなど、団体紹介をして加入者を増やし活動を活発化させている。 ・子育て分野や障害分野において地域の課題や住民のニーズをよく把握し、具体的な事業につなげていることが評価できる。 ・高齢者支援分野では、地域包括部門とともに地域に積極的に出向き、元気づくりステーションの設置に向けて協力するなど、所内連携ができています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も地域課題に基づいた事業展開を期待している。 ・事業の実施にあたっては、行政やより多くの地域人材も巻き込んでいくような仕組みも検討してみたい。 ・大豆戸地区周辺の子育てサークルのリーダー会の開催を、子育て支援拠点「どろっぷ」の協力を得て行う目標との事なので、母親同士のネットワーク構築に向けて推進していただきたい。
地域包括部門について	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防関係の取り組みが充実していて地域の住民の参加も多い。参加者の中から個別のケースをフォローする場にもなっている。 ・太尾、新横浜、大豆戸地区の出張相談については地域の住民の健康教育・啓発・介護予防等の取り組みがおこなわれ、地域の関係職種との情報交換連携の場とされている。 ・元気づくりステーションの立ち上げについては地域アセスメントを共有して地域との話し合いや検討の場を協力して行っていた。 ・個別支援についても、情報が速やかに共有されており、内部連携が図れている。関係機関とのケースカンファレンスも適切なタイミングで開かれており、主体的な困難事例への取り組みが見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出張相談、『ひとり暮らし高齢者「地域で見守り」推進事業』など、アウトリーチで地域のニーズや課題を把握することで地域アセスメントが深まっているため、今後とも協力して地域の情報共有や見守り体制を構築していきたい。 ・高齢者が介護予防・健康づくり活動を自主的・継続的に行う元気づくりステーションの立ち上げ準備・運営については、地域に関係団体との連携を深め活動できるように協力して取り組みをしていきたい。 ・個別支援は今後も緊急性が高く、複雑化した事例の対応を求められていくことが予想されるため、引き続き区との連携を強化し、現在の体制を維持・継続できるよう協力して努めていきたい。

樽町地域ケアプラザ事業実績評価

	平成 24 年度について	平成 25 年度に向けて
地域交流部門について	<ul style="list-style-type: none"> ・担当地域が広域にも関わらず、地域の行事や事業、会議等の支援をきめ細かに行っていることが評価できる。学校との連携もっており、地域の重要な拠点となっている。 ・地域の会議や活動など 53 件もの事業との関わりを、地域交流部門と地域包括部門で連携して行っていることは評価できる。 ・園芸関連講座が定着し、また、既受講者の支援も丁寧に行うことで活動の拡がりにつながっている。 ・地区の広報紙やイベントカレンダーに事業を掲載するとともに、インターネット上にブログを開設し、地域ケアプラザと関りの薄い人への広報も行っていて望ましい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、地域特性に応じた柔軟な支援を期待する。 ・4 地区の保健活動推進委員会が合同で実施する高齢者ミニデイサービス「花しょうぶ」が平成 24 年度に通算 100 回を迎え、地区間の連携を深める事業を長く支援していただいている。今後も地域と連携して事業を行っていただきたい。
地域包括部門について	<ul style="list-style-type: none"> ・包括、地域交流など職種にこだわらず、ケアプラザ全体で事業に取り組んでいる。 ・民児協にも計画的に参加し、地域と顔の見える関係を築いている。 ・個別ケースや処遇困難ケースについては、必要時に区や関係機関とカンファレンスを行い連携している。 ・介護者交流会を定期的開催し、家族支援を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 24 年度に引き続き、日常的なケース支援を行いつつ、処遇困難ケースや虐待ケースなどについては区や関係機関と連携し役割分担しながら一緒に支援していきたい。 ・高齢者が介護予防・健康づくり活動を自主的・継続的に行う元気づくりステーションや介護予防団体、ミニデイサービス等の既存組織が継続して活動していけるように、地域住民、関係機関、区と協力しながら支援していきたい。

城郷小机地域ケアプラザ事業実績評価

	平成 24 年度について	平成 25 年度に向けて
地域交流部門について	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域の見守りネットワーク構築支援事業」モデル地区への関わりを通して、地域と協働する体制ができている。今年度は小学校とも連携するなど、より幅広いネットワーク構築に寄与している。 ・地域包括部門と地域交流部門が情報交換を行い、個別支援と地域支援事業をそれぞれ協力して行っていることは望ましい。 ・他区のケアプラザと連携して中学生を対象にしたボランティア育成講座を実施しており、若い世代の担い手育成につながっている。また、独自にボランティア活動団体の情報誌を作成するなど、支援が必要な人とボランティアを意識的につなげるよう努力をされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い世代を巻き込んだ見守りのしくみづくりを進めて、他地区にもモデルとなるように経験を蓄積して行っていただきたい。 ・今後も、地域包括部門と地域交流部門の強みを活かし、連携して事業展開を行っていただきたい。
地域包括部門について	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待や処遇困難ケースなどに対して職種にこだわらず、区・包括の役割分担や報告・連絡・相談などが迅速に行っていた。 ・民生委員、地域住民、さらには地域の小学生に対しての認知症サポーター養成講座に積極的に取り組みを行っており、地域との繋がりがより強化された。 ・介護予防事業はエリア内13カ所の継続的な支援とリーダー研修を行い、介護予防情報誌の作成ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、区や包括の支援や関わりが必要なケースについてはお互いに共有し、役割分担を明確にしながら連携を深めていきたい。 ・地域に関係する団体との連携を深め、地域による見守り活動がより活発に行われるよう後方支援をしていきたい。 ・高齢者が介護予防・健康づくり活動を自主的・継続的に行う元気づくりステーションを来年早々に立ち上げ予定であり、さらに2カ所目も計画進行中である。平成25年度も地区活動をさらに広げて行ってほしい。

日吉本町地域ケアプラザ事業実績評価

	平成 24 年度について	平成 25 年度に向けて
地域交流部門について	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い世代に向けて、ブログや広報紙など住民に届きやすい情報媒体の工夫をしている。 ・子育て分野や障害分野など幅広い対象者のニーズに合わせて、関係機関と連携しながら事業展開をしている。 ・プラザ文化祭を貸館登録団体の実行委員会形式で行うことにより、団体同士の横のつながりをつくる良い機会となっているところに工夫が感じられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・転入してきた若い世代や自治会未加入者へのアプローチなど、地域特性に合わせた事業展開を期待している。 ・港北区地域福祉保健計画・港北区地域福祉活動計画「ひとつプラン港北」の推進支援を期待している。
地域包括部門について	<ul style="list-style-type: none"> ・6年目という区内では比較的新しい包括支援センターであるが、地域ケアプラザ、包括支援センターの機能を示したチラシを配布したり地域住民向けの出張講座や相談会を行うことで役割を周知されるようになってきた。 ・個別ケースや処遇困難ケースについて区役所と日頃より情報を共有し、緊急時にも迅速な対応をとることができた。 ・日頃より各地区の民生委員と相談しやすい関係性が築けており 75 歳以上のひとり暮らし高齢者を民生委員が訪問し、安心して生活ができる地域づくりを進める「ひとり暮らし高齢者地域で見守り推進事業」においても情報を共有することでより連携を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も出張講座・相談会を定期的を実施することで、更に広く地域住民の周知、理解が図れるように取り組んでほしい。 ・地域ケアプラザに遠い地区にも目を向けて、来年度は公営住宅のある地区のサロンにも出向く計画もある。地域や個別ニーズの把握やアセスメントや、2 か所目となる高齢者が介護予防・健康づくり活動を自主的・継続的に行う元気づくりステーションの立ち上げの検討を同時にすすめ、地域住民が集える居場所づくりや介護予防活動の支援に取り組んでほしい。 ・広いエリアであるが、区役所、民生委員、医療機関、サービス事業所等と密に連携を取り役割分担をしながら、今後も引き続き、地区・ケース支援をしてほしい。